日本思想史

樋口達郎

授業概要

この授業では、古代・中世・近世・近代という時代区分のもと、それぞれの時代において重要な役割を担った思想に焦点を当て、我が国において観念されてきた諸思想がどのようにして発生し、またどのように展開していったのかを、歴史的背景についても重視しながら講義する。

講義の中では、日本人にとっての「知」や「愛」、死生観と宗教、ことばや国家についての意識などと、幅広いトピックを取り上げるつもりである。この授業がみなさんにとって、日本人の知的な営みの歴史や、日本という国のありかたについて深く知り、考えるきっかけとなれば幸いである。

授業計画

第１回	初回ガイダンス：授業の概略と到達目標について
第２回	古代日本思想①：『古事記』と『日本書紀』―神代から人代へ―
第３回	古代日本思想②：『萬葉集』にみる古代日本人の思想
第４回	古代日本思想③：平安貴族の生活意識と仏教
第５回	中世日本思想①：鎌倉新仏教の成立と展開（１）―法然・親鸞と浄土教―
第６回	中世日本思想②：鎌倉新仏教の成立と展開（２）―法華宗・禅宗の思想―
第７回	中世日本思想③：神道思想の形成
第８回	近世日本思想①：「泰平の世」と儒学
第９回	近世日本思想②：国学の思想
第10回	近世日本思想③：幕末尊皇攘夷思想と明治維新
第11回	近代日本思想①：文明開化と明六社
第12回	近代日本思想②：自由民権の思想
第13回	近代日本思想③：大日本帝国憲法と教育勅語
第14回	近代日本思想④：日本におけるキリスト教
第15回	近代日本思想⑤：近代の哲学・倫理学―京都学派とその周辺―
第16回	期末試験

到達目標

・古代から近代までの日本思想史上の重要事項を、歴史との連関のもとに理解する。
・日本思想の形成と発展において特に重要な役割を担った儒学(儒教)・仏教・神道について、その基本的な思想内容や相互影響を知るとともに、外来思想である儒・仏の二教については、それらが日本においてどのように受容されたかという点に冠しても正しく理解する。

履修上の注意

・履修に際して、専門的な知識は不要である。日本思想に興味を有する者であれば、どなたでも歓迎する。
・講義開始から１５分以内であれば遅刻、それ以降は欠席とみなす。遅刻は３回の累積につき、欠席１回として取り扱う。

予習復習

・日本思想を通史として理解するために、授業後には、各自配布資料やノートを再度熟読し、復習を行うこと。
・余裕があれば、各回の内容に関連する書籍等にあらかじめ目を通しておくと、講義内容への理解が深まる。

評価方法

・期末試験(教場での記述試験)や受講態度によって総合的に評価する。
・出席日数が３分の２未満の者は期末試験への参加を認めないので注意すること。

テキスト

・講義ごとに資料(プリント)を配布する。
・副読テキストとして、樋口達郎『国学の「日本」―その自国意識と自国語意識―』(北樹出版、２０１５)を用いるので、各自用意すること。